

## 令和4年度第3回狭山市協働推進委員会会議録

開催日時：令和4年12月19日（月）午後2時00分から3時30分まで

開催場所：狭山市3階301会議室

出席者：8名

事務局：自治文化課 課長 主幹 主事補 3名

### 1. 開 会

### 2. 委員長挨拶

### 3. 議 題

令和4年度提案型協働事業の中間報告について（4月～11月）

#### 《委員からの質問》

- ・ いりそらマルシェ及び ONE-SEVEN MARKET のイベント当日の出店者数についてだが、令和4年度提案型協働事業一覧と収支内訳書において出店者数が異なるのはなぜか。  
→どちらにおいても、出店料を取っていない出店者がある関係で事業一覧に記載されている出店者数と収支内訳書に記載されている出店者数が異なっている。
- ・ いりそらマルシェの当日の様子を踏まえた、事務局の意見を伺いたい。  
→当日は子ども連れの母親をはじめとした若い世代が多く参加しており、喜ばしい結果であった。今後、マルシェを通して入曽のまちが活性化していくことが期待できる。
- ・ ONE-SEVEN MARKET は、今後も2日間の実施を予定しているのか。  
→10月1日、2日に実施した第1回は、2日間の開催となったが、12月25日（日）に実施する第2回については、1日のみの実施を予定している。今後の開催方法については、第2回の結果を受けて検討していくこととしている。
- ・ 事業の効果と補助金の額は比例しているのか。  
→市民活動団体等から事業の申請がある中で、補助金の金額と補助金の効果が比例していくのか、自治文化課で今後検討していかなければならないと考えている。

- ・ 令和5年度の行政提案型協働事業の件数が0件ということだが、今後、行政はどのような視点で市民に提案をしていくのか。  
→令和5年度の行政提案型事業のテーマについて庁内において募集をし、1件上がってきたが、過去に同じような内容で募集を行ったことがあるという理由で、取り下げとなったことにより来年度の行政提案型協働事業は0件という状況になった。

#### 《委員からの意見》

- ・ 広瀬斜子サロンは、8回の実施で参加者数が15名と報告があるが1回の実施で参加者数が平均1~2名の小さい規模であるとサロンというのは難しいのではないかと考える。サロンの会場が狭いということもあるが、参加者が参加しやすい雰囲気づくりに力を入れる必要があると考える。
- ・ 入曽地域において、今後、入曽駅周辺の開発と入曽のまちづくりが連動していくとよいと考える。
- ・ 入曽は、若い人が集まれるようなイベントが少なかった。今後、このようなマルシェ等のイベントが幅広い年齢層を巻き込みながら継続していけたら良いと考える。
- ・ マルシェでの買い物を通して、コミュニケーションが生まれることがマルシェの本来の在り方であると考え。ONE-SEVEN MARKETの出店者は、ほとんどが新しい方たちだったが、今後、地元の方に身近な出店者が増えるとマルシェがより人々にとって身近な存在になると考える。
- ・ 地元の出店者数と市外からの出店者数のバランスをとることが難しいが、行政が市内の市民活動団体等についての情報を多く持っているため、団体同士をつなげ、コーディネートする役割を担うべきである。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で開催が危ぶまれるなか、当日の利用者の参加はできなかったが、無事開催することができてよかった。コロナ禍で行動が制限される中でも、協働事業をとおして地域とのつながりや活動の幅を広げることができた。
- ・ イベント名からそのイベント内容のイメージがしづらいため、イベント名やイベント内容の周知の仕方に工夫が必要である。
- ・ いらそらマルシェは、若い人たちが多く来てくれたが、そのような若い人たちをまちづくりにどのように参画してもらうかが課題であると考え。

- ・ 令和5年度の市民提案型協働事業は、現在募集中ということだったが、市民活動団体等から提案されたものの中で、行政側が事業の効果を高めるために団体に寄り添っていく姿勢が重要である。

4. 今後のスケジュールについて

5. 副委員長挨拶

6. 閉 会